

<学校名> 吉見町立南小学校

<所在地> 比企郡吉見町大字久保田942-2

<電話> 0493-54-1504

<本事例の特徴>

慣れ親しんだ外国語を自ら使うなど相手に伝わるように工夫してコミュニケーションを図ろうとする姿への変容をねらい、ALTとともに体験的な活動を重視し活動を行っている。

<具体的な取組や成果>

児童の自主的・自発的な学習を促すために次の4点をポイントに外国語活動の授業づくりを行っている。

①語彙や表現に出合う場面の意図的設定

児童が授業の最初の場面で、実際に使われるコミュニケーションの場面を設定し出合えるようにしている。その内容はできるだけ児童に身近な場面を想定し、担任とALTが簡単な劇の形で提示している。単元の終末には、その語彙や表現、またそれまでに慣れ親しんだ語彙や表現を選んで、友達や担任、ALTとコミュニケーションを図ることができるようになってきた。

②言語や文化に気付くような働きかけ

例えば、数の英語での言い方に出合う際に、児童自身に「1」「2」「3」の言い方を考えさせている。これまでに慣れ親しんできた英語のリズムやイントネーションに倣い「ワン」「トゥー」「スウリー」などと自由に発音してみる。その上で、ALTの発音を聞くことで、児童は英語と日本語の音の違いに明確に気付くことができた。

③繰り返し聞いたり言ったりしたくなる活動の設定

単元の終末に、その単元で慣れ親しんだ表現を自分で選んで、友達や担任、ALTと積極的にコミュニケーションを図る場面を設けた。そのため、児童が英語での表現やジェスチャー等を使うことに自信をもてるまで慣れ親しませている。単元に設定された語彙や表現をゲーム等を活用し、何度も繰り返し聞いたり言ったりする活動を設定した。

④外国語の語彙や表現等を聞いたり話したりする必然性のある活動の設定

単元の終末では、児童が慣れ親しんだ表現等を使う必然性のある活動を設定している。既習の表現を使い「相手に自分の思いを伝えたい」「相手の思いを聞きたい」と思わせるような内容を児童自身が作り出せるように努めている。お互いに聞きたい、言いたい必要性を感じながら、児童は意欲的に活動している。